パスカルの≪アポロジー≫のプラン復元に関して（Ⅲ）

竹　下　春　日

本論文の目的は，パスカルの≪アポロジー≫のプラン復元のための手掛りを得るにある。≪アポロジー≫のプランを復元するためにはClassé におけるtitres に相当するものを，Non classé に対して決定せねばならない[1]。Lafuma は Classé の分類タイトルをパスカル自身によるものとなし，これを≪アポロジー≫の≪章≫chapitres と見做しているが，これは Classé が作製された当時のプランを示すものにすぎない。われわれは Non classé 中の最後の断章が書かれた時点における≪アポロジー≫のプランを問題としているのであるから，Classé の諸タイトルをそのまま Non classé のタイトルにかんして謂わばエポケーを行い，これらを括弧のうちに保留したい。したがってわれわれは，われわれ独自の方法によって，Non classé の諸タイトルを決定しなければならないのである。この決定に達するための手段の一つが，次に述べる「自然的分類」である。

Ⅰ　自然的分類について

自然的分類とは，Non classé の全断章を外部から一定の規準を持ち込むことなく，全断章のうちに自然に見出される規準，すなわち諸断章の内容の類似性そのものを唯一の規準とする分類である。これは Brunschvicg がその『パンセ』の全断章に対して行ったことと同じであるが，Brunschvicg の分類は Classé と Non classé およびその他を含む諸断章を対象としたものであり，したがって Non classé の全断章は Classé の諸断章と相関的に分類されており，このため前者の分類は後者の分類の影響を多かれ少なかれ受けている。したがって Non classé の分類は Non classé そのものの自からなる分類とは言い難い。われわれ自身による自然的分類が必要となる所以である。以下は，この自然的分類を示す分類表である。

II　自然的分類の表

1　順序——36, 42, 44, 45, 46, 47, 48, 49
2　人間の空しさ——90, 91, 93 (3), 94, 95, 96, 126 (4), 146 (23), 160 (9), 169, 199
3　自愛心——93 (2), 99 (4・5), 141 (7), 150, 154, 164, 463 (24)
4　惨めさ——99 (3・5), 125 (8), 126 (2), 128 (18), 129, 131, 133, 227
5　堕落した本性——99 (3・4), 130, 132, 134 (48), 136, 137, 145, 166, 311 (48), 601 (41), 609 (41), 702, 714
6　想像力——100, 135, 138 (7), 207 (11)
7　不法なこと——138 (6), 141 (3), 142, 205, 208, 263 (10)
8　不幸とその隠蔽——97, 125 (4), 139, 143 (54), 156 (13)
9　退屈——160 (2), 163
10　習慣——7 (61), 194, 195, 198, 202, 254, 263 (7)
11　力——197, 200, 201, 204, 207 (6)
12　人間の偉大さ——223, 226 (13), 232 (13), 233 (13)
13　思考——156 (8), 226 (12), 232 (12), 233 (12)
14　隠れた神——310 (60), 315, 317 (22), 319, 453, 724 (60), 733 (50)
15　この宗教（キリスト教）——41, 313, 320, 418 (30・31), 452 (22), 469 (35・62), 472, 716, 726 (20)
16　心情と理性——224, 225
17　人間に内在する矛盾——161, 247, 249, 252 (60), 253, 257, 259, 395 (45・48)
18　気晴らし——128 (4), 273, 274, 276, 277
19　哲学者たちの考え——285, 286, 287, 288, 289, 292, 293, 294 (53), 295 (52), 296, 297, 298, 303 (20), 394 (27)
20　真の幸福——37, 40, 301, 302, 303 (19), 305, 306 (51), 725, 726 (15)
21　人間の無知——13, 312, 316, 325
22　明るさと暗さ——317 (14), 321, 324, 452 (15), 735 (36・43・45・50), 736 (35・36・43・45・50)
23　流転性——146 (2), 152, 206

24　不信仰者に対する批判と教導——11（35），12，15，17，343，346，349，350，351（60），417（48），454（27），462（27・34・41・62），463（3），464，465，466（33），471，514（33・37）
25　無限の運動——344，348
26　権威——374，378
27　ものの見方の矛盾——255，394（19），454（24），462（24・34・41・62）
28　信じるための手段——375，376，396（60）
29　ユダヤ人の古さ——415，416，421
30　キリスト教がただ一つの宗教ではないということについて——418（15・31），419，420，422（59），477（36），478（36）
31　救いの道を約束してくれる宗教——318，427，418（15・30），708
32　キリスト教が驚くべきものであること——428（33），429
33　聖書を尊重すべきこと——428（32），456，458，466（62），467（43），514（24・37），564，565，566
34　二つの相反する真理——460，462（24・27・41・62）
35　キリスト教の土台（根拠・証拠）——11（24），14，38，459，461，469（15・62），470，736（22・36・43・45・50）
36　奇蹟——473，474，475，477（30），478（30），736（22・35・43・45・50）
37　象徴——324，511（41），512，513，514（24・33），515，516，517，518，519，520，521，522，523，524，525，526，527，530，532（41），534，535，664（43），695
38　ユダヤ民族のすぐれた点——549，550，552，553，556，557
39　ユダヤ教とキリスト教——554，555（42）
40　教会の歴史——561，562
41　イエス・キリスト——462（24・34・62），511（37），528，529，532（37），560，600，601（5），602，605，607，608，609（5），611，642（43）
42　救い主の証人としてのユダヤ民族——457，551，555（39），559，603，604，655（43）
43　予言——467（33），476，610，640，641，642（41），644，645，646，647，648，649，651，652，653，655（42），656，657，658，659，660，661，662，663，664（37），718，736（22・35・36・45・50）
44　肉の欲，目の欲，生命の誇り——696（60），720（60），721

45　情念——395（27・48），650，701（48・49），723，736（36・50）
46　神の赦しと悔改め——533，698，709
47　動いているものと固定点——706，707
48　善と悪（美徳と悪徳）——134（5），311（5），395（27・45），417（24），694，701（45・49），704，712，719（60・61）
49　義人と悪人（選ばれた者と罪あり見捨てられた者）——697，700（58），701（45・48）
50　慈愛と裁き——715，733（14），734，735（22），736（22・35・36・43・45）
51　真剣な求め方——39，306（20）
52　デカルト——92，297（19）
53　ピロニスムの効用——98，294（19）
54　今の状態と今はない状態——143（8），144
55　徳への努力——155，699，705，711
56　人間は動物そのものであること——162，165
57　人間と人間以外のものとの違い——230，231
58　自然における二つの無限——260，700（49）
59　諸宗教——422（30），425，558
60　キリスト教徒の性格（Sein）——252（17），310（14），351（24），396（28），531，696（44），717，719（48・61），724（14）
61　キリスト教徒のあるべき姿（Sollen）——7（10），693，719（48・60），720（44），722
62　キリスト教における矛盾——248，250，323，462（24・27・34・41），469（15・35）

分類しがたい断章——1，2，3，4，5，6，8，9，10，16，18，19，20，21，22，23，43，127，140，147，148，149，153，167，168，196，203，227，228，229，256，258，261，262，304，307，308，314，345，347，377，379，468，521，563，606，612，654，693，703，710，711，714

III　分類表の解説

上表について玆で説明を施しておきたい。冒頭の数字は分類番号であり，次に記されている語は分類項目の名称である。ダッシュの後に書かれている数字は Lafuma による『パンセ』(Édition intégrale, Troisième édition, Delmas,

1960）の断章番号である。この番号の後にあるカッコ内の数字は，当断章がカッコ内の数字に相当する分類番号をもつ分類項目にも分類配属せしめうることを示すものである。例えば，2の「人間の空しさ」に分類されている断章93は3の「自愛心」のうちにも分類可能であることを示している。したがって「自愛心」中には93（2）が当然見出される。

次にわれわれは，分類がいかにして行われたかを述べてみたい。すなわち何故該断章が該分類項目中に配属せしめられたのか，その理由を述べる必要があろう。分類の規準は既述のごとく断章間の内容上の類似性ないし親近性に存するのであるが，この類似性の判定が最終的には常識と直観に依存していることは，言うまでもない。多くの諸家は分類の成果たる分類表のみを発表しているが，われわれの言うごとき理由説明を行なってはいない。これは学問的手続きとしては不備であると言わざるをえない。しかし分類表のすべてについて，これを説明することは事実上その余裕を持たないので，一例のみを掲げることにする[2]。23の「流転性」には146（2），152，206の三個の断章が分類されている。諸断章の内容は次のようである。

≪私の考えを書きとめている途中で，それがときたま逃げてしまうことがある。だがこのことは，つい忘れがちな，私の弱さというものを思いおこさせてくれる。これは，私の忘れ去った考えに劣らず，私にとって教訓的である。なぜなら，私にとっては，自分の無を知ることだけが大事であるからである。≫(La. 146—Br. 372)；≪流転。持っているものがみな流れ去ってしまうのを感じるのは，恐ろしいことだ。≫(La. 152—Br. 212)；≪時は，苦しみや争いを癒す。なぜなら人は変わるからである。もはや同じ人間ではない。侮辱した人も，侮辱された人も，もはや彼ら自身ではないのである。それはちょうど，かつて怒らせた国民を，二世代たって再び見るようなものである。彼らは依然としてフランス人ではあるが，しかし同じフランス人ではない。≫(La. 206—Br. 122)

筆者がこの三個の断章を「流転性」という分類項目名に一括したのは，206ではこの断章の主旨が時の変化について語るものだからであり，152は≪流転≫という言葉が見られるからである。そうして最初の149（2）中には≪私の弱さというものを思い……≫とか，≪私の無を知ることだけが大事である……≫等の言葉が見られるところから，この断章を2の「人間の空しさ」のうちにも分類しうることは，容易にこれを理解しえよう。ところでこの断章中の≪私の考えがときたま逃げてしまう≫ことや，≪私の忘れ去った考え≫という言葉は，内容上fr. 152の≪流転。持っているものがみな流れ去って云々≫の一つの場合と

見られるから，この断章を「流転性」のうちに分類したのである。そうして断章の分類はすべて同様の手続きを経て行われたものである[3]。

さて，自然的分類表における分類項目間の不統一や無秩序，また項目数が Classé のタイトル数（27～28個）より多いこと（2倍以上），および分類し難い断章が相当数に達すること（53個），最後に或る一つの断章が数項目に所属しうることを示したことは，この分類が殊更理由を設けて分類を強行してはいないということを示している。すなわち，この分類が統一性と体系性を強制されず，無理なく分類されていて，自然的分類の名に相応しく自然であることを意味するものである。言いかえればこの分類表は，内容的類似をもつ断章群が各分類項目を形成していること自体を除いては，一般に必然性を欠いていること，あるいは偶然性に充ちていることを特徴とするものである。それにもかかわらず，われわれがこの分類表の各項目名を Classé のタイトルと対比するとき，その項目名において一致ないし近似するものが相当数あることは，大いに注目すべき事柄である。

この一致ないし近似の関係を，便宜上等符号で表わせば，次の通りである。1° Ordre＝1 順序；2° Vanité＝2 人間の空しさ；3° Misère＝4 惨めさ；4° Ennui＝9 退屈；6° Grandeur＝人間の偉大さ；7° Contrariétés＝17人間に内在する矛盾；8° Divertissement＝18 気晴らし；9° Philosophes＝19 哲学者たちの考え；10° Le sonverain Bien＝20 真の幸福；15° bis La nature est corrompue＝5 堕落した本性；16° Fausseté des autres religions＝59諸宗教；17° Religion aimable＝31 救いの道を約束してくれる宗教・32 キリスト教がおどろくべきものであるということ；18° Fondements de la religion et réponse aux objections＝35 キリスト教の土台（根拠・証拠）・24 不信仰者に対する批判と教導；19° Loi figurative＝37 象徴；23° Preuves de Jésus-Christ＝41 イエス・キリスト；24° Prophéties＝43 預言；26° Morale chrétienne＝38 善と悪（美徳と悪徳）・49 義人と悪人・55 徳への努力・61 キリスト教徒のあるべき姿

かように17項目に汎って Classé のタイトルと自然的分類項目とが一致するのである。これは Classé のタイトル数（27～28）の過半数であって，偶然とは言い難い。われわれは Non classé の自然的分類にあっては，既述のごとく内容上類似の断章群を一定の分類項目中に収めるという方法を採ったのであり，Classé においてもパスカルは内容上緊密な連関を有する一定の断章群にタイトルを附したのである。したがって両者の一致ないし近似は，分類された両断章群の内容上の一致ないし近似に由来するものであると見做さざるをえないので

ある。かくてわれわれは，Non classé のタイトルの一部を未だ決定的ではないにせよ，その可能性をもった分類項目名を推測しえたのである。

〔注〕

（1） Classé およびその titres については，拙論（Ⅰ）を参照――駒大外国文学研究，第4号。

（2） 以下の諸断章の訳文は，「世界の名著24・パスカル」（中央公論社）による。

（3） 分類表中には該断章がなぜ該項目中に分類されたのか，一見不可解のものが存する。例えば1の44；5の702；17の257；28の376；37の515，521；38の556；43の644；44の720，etc. がこれである。これらはそれぞれ相応の理由をもって分類されたのであるが，理由をすべて開陳する余裕はないので，今は一切割愛することにする。

（注了）